

第12回鳥取県原子力防災専門家会議について

平成26年9月18日
原子力安全対策課

島根原子力発電所2号機に係る新規規制基準適合性審査の状況や平成26年度原子力防災訓練等について、専門的な指導、助言をいただくことを目的として、原子力防災専門家会議を開催した。

- 1 開催日時 平成26年9月16日(月) 13:30~15:40
 2 開催場所 鳥取県災害対策本部室(県庁第二庁舎3階)
 3 出席者
 (1) 原子力防災専門家会議委員

出欠	区分	専門分野	氏名	所属	役職
○	会長	放射線計測・防護	占部 逸正	福山大学	教授
○	委員	原子力工学	青山 卓史	(独)日本原子力研究開発機構	研究主席
○	〃	放射線治療・放射線物理	内田 伸恵	鳥取県立中央病院	室長
○	〃	環境放射能	遠藤 暁	広島大学	教授
×	〃	線量評価(内部被ばく)	甲斐 倫明	大分県立看護科学大学	教授
×	〃	緊急被ばく医療	神谷 研二	広島大学緊急被ばく医療推進センター	センター長
○	〃	地震活動・震源メカニズム	西田 良平		鳥取大学名誉教授
○	〃	放射能環境変動	藤川 陽子	京都大学原子炉実験所	准教授

- (2) 危機管理局長、原子力安全対策監
 (3) 米子市・境港市・三朝町・県関係課等の職員
 (4) 中国電力職員

4 議題及び主な結果

(1) 島根原子力発電所2号機の適合性審査の状況等について

新規規制基準適合性審査の状況(地下構造評価、直下型地震、確率論的リスク評価、フィルタベントなど)について、中国電力から説明を受け、質疑応答を行った。

<主な意見等>

- ・プラント関係(確率論的リスク評価等)については、実施する目的や効果などを明確にして、より分かりやすい説明をすること。また、審査会合資料にマスキングが多く、内容の確認ができないので、見直すこと。
 (→中電: 分かりやすい説明については引き続き検討したい。マスキングについては原子力規制委員会の同様の指摘を踏まえて、検討しているところ。)
- ・地下構造に不陸がある場合、地震波が屈折して特定の箇所に集中することがあるので、その影響について評価を行うこと。
 (→中電: 地下構造モデルの設定の妥当性も含めて、まずは審査会合で丁寧に説明していきたい。)
- ・公衆の放射線被ばくへのリスク評価に当たっては、単なる積算被ばく線量だけでなく、住民目線に立った評価(住民避難、除染など)もできないかどうか検討が必要ではないか。
 (→中電: できる限り考慮していきたい。)

(2) 平成26年度原子力防災訓練について

本年度の島根原子力発電所対応に係る原子力防災訓練の計画概要等について説明を行い、次のような意見等をいただいた。

<主な意見等>

- ・事故シナリオに応じた原子炉の状態について、事業者から情報提供が必要である。
 (→事務局: 事故の状況について視覚的な情報も提供していただきながら、事業者からの連絡員を通じ、原子炉の状態を的確に把握していきたい。)
- ・気象情報も避難対応上の重要な条件なので、気象台と連携した対応が必要である。
 (→事務局: 気象予測も対応できる体制も検討しながら避難指示を検討していきたい。)

(3) その他

緊急時モニタリング計画の策定、住民説明会の実施状況等について報告。

また、今後の原子力防災専門家会議の進め方について、検討事案に応じ専門家から適宜個別に意見聴取を行うこと、原子力防災訓練など全ての分野に関係する事案に関してはこれまでどおり幅広い専門家から意見聴取等を行うこと、機動的に対応できるよう専門家の追加(汚染水対策等)や体制の強化を図ること等について確認した。